



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

愛知県支部

No. 155

2023. 夏



▶ CLOSE UP

誰もが安心して元気に生活できる社会を目指して

▶ TOPICS

▶ 令和4年度日本赤十字社愛知県支部一般会計歳入歳出決算

▶ 広めよう赤十字！5月の愛知一斉キャンペーン

広報誌

日赤あいち



CLOSE UP

誰もが安心して
元気に生活できる
社会を目指して
―地域の課題にこえるための
新たな取り組み―

広めよう赤十字！5月の愛知一斉キャンペーン

日本赤十字社では、毎年5月を「赤十字運動月間」として、赤十字の理念や活動へのご理解・ご協力を呼びかけるキャンペーンを行っています。

今年も愛知県では「広めよう赤十字！5月の愛知一斉キャンペーン」と題して、県内各地で赤十字奉仕団のみなさまが街頭キャンペーンや地元のイベントなどに参加して赤十字の活動を紹介するなど、啓発活動を行いました。また、放送各局のご協力による赤十字のテレビ・ラジオCM放送も行い、より多くの方へ赤十字のPRを行うことができました。



名古屋グランパスエイト×豊田市赤十字奉仕団

5月の赤十字運動月間に先駆けて、パートナーシップ協定を結んでいる名古屋グランパスエイトにご協力いただき、4/23に試合会場内で赤十字のPRブースを出展しました。

豊田市赤十字奉仕団協力のもと、2023年トルコ・シリア地震救援金の募金活動をはじめ、救護服の試着体験や車両の展示等、赤十字の活動を身近に感じていただけるようなブースを展開しました。

赤十字運動月間に向け、大きな弾みとなる一日となりました。



田原市赤十字奉仕団

5/4に田原市で開催された第20回市民緑花まつりにてAED体験や紙芝居、キッチンカーによるカレーの試食など赤十字の啓発ブースを出展しました。赤十字の起こりなどを子どもでも楽しく学べるように、奉仕団が紙芝居を自作し、今回初めてのお披露目を行いました。



東浦町赤十字奉仕団

5/6に東浦町で開催されたフィリピンフラワーフェスティバルにて、外国をルーツに持つ方に向けて幼児安全法講習や非常食の展示などを行いました。資料はすべて英語、タガログ語、ポルトガル語、スペイン語に訳されており、参加者のなじみのある言語で学べるように工夫されていました。



この他にも多くの方々に赤十字の啓発活動にご協力いただきました。
ご協力いただいた皆さま、誠にありがとうございました。

活動資金 ご協力ありがとうございます

日本赤十字社愛知県支部へ活動資金として多額のご寄付をいただいた法人様

- ▶ 江口光株式会社 様
- ▶ 三協化成産業株式会社 様
- ▶ シンコー株式会社 様
- ▶ スズラン株式会社 様
- ▶ ヒダ電気株式会社 様
- ▶ 株式会社マクスエエンジニアリング 様
- ▶ 株式会社ミニミニグループ 様

PRESENT

ハートラちゃん
グッズ3点セット

20
名様

日本赤十字社公式マスコットキャラクターハートラちゃんが登場しているマルチジッパーバックとクリアファイルとシールの3点セットです。



応募先

Mail : aichi-koho@aichi.jrc.or.jp

Fax : 052-971-1590

郵送 : 〒461-8561 名古屋市中区白壁 1-50
日本赤十字社愛知県支部「日赤あいちプレゼント」係

明記事項

①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③電話番号
④年齢 ⑤「日赤あいち」の入手先 ⑥ご意見・ご感想など

締切/令和5年9月30日必着

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

日赤あいち

〒461-8561 名古屋市中区白壁 1-50 TEL 052-971-1591 (代表)

発行元/日本赤十字社愛知県支部

発行日/令和5年7月1日



活動の詳細や最新情報はウェブサイトかSNSへ

日赤あいち

検索

<https://www.jrc.or.jp/chapter/aichi/>



NISSEI.AICHI

令和4年度日本赤十字社愛知県支部一般会計歳入歳出決算

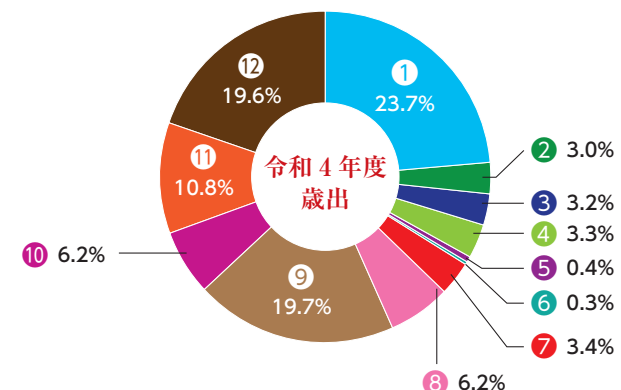
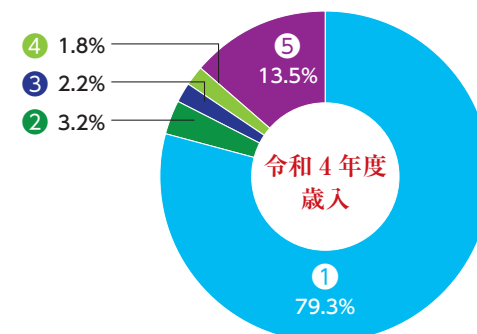
令和4年度、愛知県支部では個人・法人の皆さまからいただいた会費(社費)や寄付金を主な財源として、災害救護事業をはじめとした人道支援活動を実施しました。日本赤十字社代議員会で承認されましたので報告します。

歳入			
内訳	決算額		
① 社費収入	1,357,389,283 円	79.3%	
② 委託金・補助金及び交付金収入	55,459,515 円	3.2%	
③ 資金繰入金	37,858,659 円	2.2%	
④ 資産収入・雑収入	30,751,608 円	1.8%	
⑤ 前年度繰越金	230,869,790 円	13.5%	
合計	1,712,328,855 円	100.0%	

歳出			
内訳	決算額		
① 災害救護事業と救護看護師の養成に	334,495,040 円	23.7%	
② 救急法や健康生活支援講習などの普及に	42,547,914 円	3.0%	
③ 赤十字ボランティアの活動と育成に	45,798,687 円	3.2%	
④ 青少年赤十字の育成と普及に	47,239,829 円	3.3%	
⑤ 社会福祉事業などに	6,264,793 円	0.4%	
⑥ 血液事業の普及啓発に	4,305,776 円	0.3%	
⑦ 国際的な活動に	48,458,659 円	3.4%	
⑧ 広報・活動資金募集のために	87,919,860 円	6.2%	
⑨ 赤十字病院救急医療体制の整備に	278,365,430 円	19.7%	
⑩ 市町村における赤十字活動に	86,893,612 円	6.2%	
⑪ 全国的な赤十字活動に	152,790,660 円	10.8%	
⑫ 支部の運営に	276,007,857 円	19.6%	

合計 1,411,088,117 円 100.0%

* 歳入歳出差引額301,240,738円は翌年度の事業実施のために繰り越されました。



PICK UP

災害救護事業と救護看護師の養成に

行政の実施する訓練への参加や本社・第3ブロック共催での「令和4年度全国赤十字救護班研修会」を開催するなど、災害時の行政及び関係団体との連携体制の強化に努めるとともに、災害時に活動する赤十字救護班要員及び赤十字防災ボランティアを養成するための研修も実施しました。



令和4年度全国赤十字救護班研修会

救急法や健康生活支援講習などの普及に

対面式に加え、オンラインやDVDを使用する方法を併用しながら講習会を開催し、健康生活支援講習及び幼児安全法については、3年ぶりに指導員養成講習を実施し、新たな指導員を養成しました。

また、多文化共生事業の一環として名古屋オーシャンズと協力して「やさしい日本語」でのAED講習を実施しました。



「やさしい日本語」でのAED講習

青少年赤十字の育成と普及に

リーダーシップ・トレーニング・センター等の行事をオンラインの活用や時期変更などの対策を講じながら行うとともに、令和4年に青少年赤十字が創設100周年を迎えたことを記念して県内にある赤十字ゆかりの場所等をめぐる研修ツアーを行いました。

また、経済的な理由等で生理用品を手にすることがなくなる「生理の貧困」について、物価高騰などの理由により生理用品の入手に困っている児童生徒を支援するため、愛知県内の小・中・高等学校等に生理用品の配付事業を実施しました。



JRCスタジアム・ツアー (奥殿陣屋)



※事業報告の詳細については、
日本赤十字社愛知県支部
ウェブサイトでご覧いただけます。
<https://www.jrc.or.jp/chapter/aichi/about/>

令和5年度梅雨前線による大雨及び
台風第2号による災害への対応

被災地への職員の派遣と救援物資の搬送

6/2(金)に梅雨前線の活動が活発になり、線状降水帯による非常に激しい雨が降り続くなど、愛知県の一部に「緊急安全確保」の避難情報が発令され、三河地域を中心に被害が発生しました。

愛知県支部では直ちに災害対策本部を立ち上げ情報収集を開始し、翌日6/3(土)には豊橋市及び豊川市へ職員を派遣し、被害状況や支援の必要性などについて調査を行いました。その後、災害時に備えて各地域で備蓄している緊急セットや毛布などの救援物資が不足したため、市からの要請に基づき、岡崎市及び豊川市へ追加の救援物資を搬送しました。

被害を受けられたみなさまに、心からお見舞いを申し上げます。



災害対策本部での情報収集の様子



救援物資の搬送

日本赤十字豊田看護大学
オープンキャンパス

「OPEN CAMPUS 2023」開催!

日本赤十字豊田看護大学では、令和5年9月23日(土・祝)にオープンキャンパスを開催します。

看護体験や模擬授業、在学生と直接交流できるキャンパスツアーや座談会等があります。

また、少人数でのアットホームなオープンキャンパスminiも8月26日(土)に開催します。

本学の特色である「赤十字の看護」に触れる絶好の機会ですので、参加をご希望の方は本学ホームページからお申込みください。高校生の皆さんの参加を心よりお待ちしております!



看護体験 (小児看護学) の様子



在学生による相談コーナー

日赤豊田 オープンキャンパス

ANA (全日空) グループによる
すずらの贈呈日本赤十字社愛知医療センター
名古屋第一・名古屋第二病院を慰問

ANAグループの客室乗務員とグランドスタッフの方々が、両病院の入院患者さんに「しあわせ」「幸福の再来」の意味を持つすずらの花としおりを届けてくださいました。

ANAグループの社会貢献活動の一環として続くこの活動は今年で68回目を迎え、ANAの皆さんに直接ご来院いただくのはコロナ禍を経て4年ぶりとなりました。

客室乗務員の方が病室を訪れ、患者さんにすずらの切り花と香り付きのしおりを手渡すと、患者さんからは「前向きな気持ちになります。ありがとうございます。」と嬉しそうなお声を聞くことができました。

ANAグループのご厚意に、心より御礼申し上げます。



日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院

この夏、献血に行こう。

10代夏の献血キャンペーン!

愛知県赤十字血液センターでは、「10代夏の献血キャンペーン」を実施します。県内9カ所の献血ルームまたは献血バスで献血の受付をされた10代の方にオリジナル記念品をプレゼントします。※なくなり次第終了となります。

期間は令和5年7月下旬から同年9月30日までです。※詳細は当センター HPをご覧ください。

近年、若い方々の献血へのご協力が減少傾向にあります。輸血用血液を必要とする患者さんの命を守るためには、若い方々の献血へのご協力が必要です。

ぜひ、この機会に献血へのご協力をよろしくお願いします。



◀愛知県赤十字血液センター HPはこちら



視力・聴力検査は学校の先生が行いました



健康診断実施に向けた事前研修会の様子



今回支援した学校は、学校法人倉橋学園伯人学校イーエス豊橋。これまで同学校では児童生徒の健康診断が実施されていなかったため、今回は先ず学校の教職員を対象に研修会を実施しました。JICA中部を通じて愛知医科大学浅野いずみ講師から、日本における健康診断や健康管理の流れ、学校現場における健康診断の目的について講義いただき、教職員たちも真剣な表情で受講していました。

そして、5月18日(木)には株式会社八神製作所の協力で身体測定にかかる資機材を借用し、教職員たち自らが約160名の生徒たちの身長、体重、視力そして聴力を測定。また併せて尿検査も地元の検査センターを通じて実施しました。

初めての経験に不安な表情を見せる子どもたち、また初めて自分の身長や体重を知って喜ぶ表情の子どもたちが印象的でした。

6月には日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院、名古屋第二病院から医師を派遣し、内科検診を実施しました。

愛知県支部では今後も多文化共生社会の実現の一助となる取り組みを実施していきます。

現在、愛知県内には約28万人の外国人住民が暮らしており、うち、外国人児童・生徒数は約1万7千人と全国最多です。

愛知県支部では、これまでにやさしい日本語を使用した講習の普及や、外国にルーツのあるボランティアの養成など、多文化共生の取り組みを推進してきました。また、平成29年7月には公益財団法人豊橋市国際交流協会と多文化共生事業の連携協力に関する協定書を締結し、これまで豊橋市内でも外国にルーツのある方々を対象に防災啓発事業などを実施してきました。

今回、多文化共生事業の一環として、様々な事情により児童生徒の健康診断が実施されていない外国人学校において、豊橋市や関係機関との連携を通じて健康診断実施の支援事業に取り組みました。

01 多文化共生事業の一環としての
外国人学校における健康診断支援事業学校法人倉橋学園伯人学校
イーエス豊橋
米原デヴァニル校長への
インタビュー

●今回、初めて健康診断を実施してみた感想

在籍する児童生徒を対象とした健康診断の実施は教職員たちの従来からの希望でした。

今回、赤十字や行政をはじめ様々な関係機関の協力により健康診断を実施できたことを本当に感謝しています。

教職員も一生懸命健康診断に取り組めたことや、生徒たちの嬉しそうな表情が印象的でした。

●学校現場での健康管理にかかる課題について

今回の健康診断で、視力の結果が良くない生徒たちが散見されました。子どもたちが健康に学校生活を過ごすためには、保護者にもこの健康診断の重要性を伝えていくことがとても重要であると思っています。また、ブラジル人学校には養護教諭がいなかったため、教職員たちが健康診断実施時だけでなく、通年で生徒たちの健康管理を意識してもらう必要があると感じています。

在籍する生徒は、母国に帰国することなく日本で就職したり、進学する生徒が多くなっています。そうした状況で、生徒たちの健康について学校と保護者がしっかりと認識することは大変重要なことです。

今回の支援は、保護者や教職員にとって学校現場での健康診断の重要性を改めて考えるきっかけになったと思います。

日進市健康福祉部地域福祉課
インタビュー

日進市では、「共に支え合い、健やかに暮らし、誰もが尊重されるまち」という基本理念のもと、健康づくり、介護予防の取り組み、在宅医療・介護の連携や地域の支え合い体制づくりを推進してきました。

令和2年の国勢調査に基づく平均寿命が、男性は83.4歳で県内1位(全国4位)、女性は88.0歳で県内5位となり、全国でも有数の健康長寿のまちであることが分かりました。

今回の「地域の支えあいを通じた高齢者健康生活支援モデル事業」を通じて日本赤十字社愛知県支部や関連企業がお持ちのノウハウをお借りすることで、一人でも多くの市民の方に自分自身の身体のことに関心を持っていただき、健康づくりや介護予防に取り組んでいただきたいと思います。



近藤日進市長と地域福祉課の皆さん



ボランティアドライバーを対象とした救急法講習の様子



高齢者のひとり暮らしが増加する中、愛知県支部は、高齢者の地域での孤立を防ぎ、社会参加を促し、健康増進に資する環境づくりを目的として、介護・フレイル予防のための健康講座や健康チェックブースの設置、赤十字健康生活支援講習の開催、移動や外出の支援など、企業等と連携して総合的に支援する事業を今年度から実施します。

今年度は、日進市と「地域の支えあいを通じた高齢者健康生活支援モデル事業」連携協定を締結し、協働で事業を推進いたします。

5月28日(日)には、市内の高齢者の移動支援を行うボランティアアドライバーを対象に赤十字救急法講習を実施しました。受講者からは「日赤の講習を通じて初めて知ったことが沢山あった」「万が一の事態への備えについて、改めて考えるきっかけになった」といった声が聞かれました。

また、6月20日(火)には、昨年度日本赤十字社とパートナーシップ協定を締結した明治安田生命保険相互会社が、市内のスーパリーの店舗内に健康チェックブースを展開し、買い物にいられた方々の血管年齢や握力を測定する取り組みを行いました。これからも、高齢者の方々の健康意識を高めることや、外出を促すきっかけになるように、定期的に開催する予定です。

今後は、日進市や様々な企業団体と連携しながら、高齢者の孤立を防ぎ健康増進に寄与する取り組みを推進していきます。

02 地域の支えあいを通じた
高齢者健康生活支援事業誰もが安心して元気に生活できる社会を目指して
―地域の課題にこえるための新たな取り組み―

少子高齢化の進行やコロナ禍での社会経済情勢の変化に伴い、地域ニーズも時代とともに変化し、多様化しています。愛知県支部では今年度から、「子ども・子育て」「高齢者」「多文化共生」「防災・減災」の4分野を重点に、行政・企業等と連携しながら、地域のニーズに対応する事業を推進してまいります。

今号では、その中でも多文化共生事業の一環としての外国人学校における健康診断支援事業と、高齢者健康生活支援事業の取り組みについて紹介します。